

会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営等に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	第32回史跡高松城跡石垣整備会議
開 催 日 時	令和2年1月22日（水） 9時30分～11時30分
開 催 場 所	玉藻公園 披雲閣 松の間
議 題	(1) 旭橋北側石垣解体修理工事について
公 開 区 分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上 記 理 由	
出 席 委 員	胡委員・北野委員・山中委員
傍 聴 者	1人
担当課及び連絡先	文化財課 823-2714

協議経過及び協議結果

会議を開会し、次の議題について報告し、下記の結果となった。

議題（1）旭橋北側石垣解体修理工事について

（事務局）石垣解体に伴う各種調査と破損要因、修理方針の説明を行った。

（事務局）破損が新たに確認された石材について、解体範囲を追加したい。

（委員）割れが確認された石材でも、できる限り現状で使用することを目指して施工すること。特に北側の割れ石については、脇に大ぶりの石材を置いて滑らないよう固定することで、再利用が可能なのではないか。

（事務局）北面の追加解体は行わないこととする。東面の追加解体については、根石付近で石垣全体の破損の起点となっていると考えられることから、解体修理が避けられない。解体範囲を再検討し、最小限での解体を行いたい。

（事務局）北面の石材のヌケに関しては、押し込んだ石材の前面に簡易蛇籠を設置する。根元の沈下が想定されるため、捨石を下部に施工し、沈下を防ぐ。

（委員）解体範囲周辺の間詰石も総体的に点検すること。点検に伴い現状を変更した場所については、適切に記録を残すこと。

(委員) 天端は雨水の浸透に対処した方法とすること。フィルター層の施工も検討すること。

(事務局) 盛土には石灰を混和したタタキ仕上げとし、断面蒲鉾状に施工することで対応する。フィルター層は施工可能か検討する。

(事務局) 隅角部の背面に向かって荷重を分散させるために、大型石材を加工して設置したい。

(委員) 大型の石材を用いるよりも、背面には入念に石材を詰めた方がよい。大きさではなく、垂直方向に荷重が伝達できるかどうか重要である。栗石は全体的に入念な施工により健全性が向上することが見込める。

(事務局) 復元勾配は、各面の石の通りを考慮しつつ、残存状況の良い角上部の石材を基準に復元勾配を定める。基本方針としては、石垣の変形に伴う隙間を埋めるように積み直しを実施する。事前にモデルを作成して復元勾配を検討した上で、修理を進めることとする。

(委員) 承知した。